

3月にまとめられた教育再生実行会議の第6次提言には、「教育機関を核とした地域活性化」「地域・家庭の教育力や、スポーツ・文化を生かした地域活性化」が含まれた。高知県南国市稲生地区ではその内容を先取りし、学

### 高知・南国市稲生地区

校支援から地域支援、学びの施設を活用した地域創生に発展した活動を続けている。

# 学校支援から地域創生へ発展



創刊 1946(昭和21)年5月1日  
発行所

日本教育新聞社

〒105-8436  
東京都港区虎ノ門1-2-8  
電話03(5510)7777(大代表)  
郵便振替 00150-8-196500

©日本教育新聞社 2015

購読申し込み  
Eメール kodoku@kyoiku-press.co.jp

ホームページ  
http://www.kyoiku-press.co.jp

**NWeb** このマーク表示のある記事については、ご愛読者に限り、ホームページ上でさらに理解を深めるための資料を閲覧することができます。

index

## 学校支援から「地域創生」へ

19

地方創生、地域活性化が各地の重要課題となる中、政府の教育再生実行会議は教育を通してそうした課題と向き合うことを提言している。高知県南国市に優れた実践例があった。

昨年度実施した「びわも祭り」。学校支援から地域支援、地域活性化に発展した活動の一つ



トトづくりなど掲げ

・後継者につなぐ④サトづくり(土地利用・里山整備に中心を持つ)⑤ユメづくり(農産品・地域の資産を宝に変える)の五つ。

「チーム稲生」の目標は、①カラダづくり(健康第一)②キツナづくり(近所付き合い・仲間づくりをする)③ヒトづく(子どもを育み、若者め、健康と福祉に係る

## PTCA通じ住民の絆強く

南国市稲生地区では平成17年、市立稲生小学校を舞台に、PTAに地域を意味するCを加えたPTCAの組織づくりをスタート。翌年、県内初のPTCAが発足した。学校支援は、PTCA発足前から行ってきた食育や花育の推進に加え、発足後は小学校学習発表会と地区文化祭の合同実施、高齢者と低学年児童の絵本読み合い、小学校が行うラジオ体操への地域住民参加、多世代参加型の防災活動などと活動を広げていった。20年には、学校支援地域本部事業を開始。これらの活動を通して住民の結び付きも強まり、地区全体が元気になるっていった。

生涯学習が活発にPTCAや学校支援に関わる人たちが、地区の公民館「市立稲生ふれあい館」を中心にさまざまな生涯学習活動に取り組みようにもなった。中には、PTCAに刺激を受けて高齢者が結成し、商品開発を行った「稲生びわ研究会」などもあった。そんな中、「特産品のびわによる地域振興を、公民館を舞台に実現していきたい」と25年、文科省の「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」を受託。学校支援で培った力を基に地域支援を実施する活動が始まった。

同じころ、住民同士が互いに支え合い、生きがいのある地域づくりを目的とした高知県の施策「集落活動センター」の設立準備をスタート。住民の希望もあり、26年に集落活動センター「チーム稲生」が発足した。

## 集落活性化の組織立ち上げ

## 商品開発や健康講座など活動盛ん

る活動を行う「サロン活用部会」と農産物の加工品開発やブランドづくりを進める「ユメ部会」の2部会を設置し、稲生ふれあい館を拠点に活動を展開する。本年度はICTを利用した健康地域づくりも実施するなど、活動の幅を広げる方針だ。

高齢者も生き生き  
チーム稲生の山崎昇会長は「学校支援をきっかけに生涯学習が盛んになっていたので、自然に地域支援へ進めた」と話す。夫館長は「家にこもりがちだった90歳の女性も積極的に参加しており、地域に元気が出てきた」と成果を述べた。

一方、学校の食育を支援している浜田和子さんは「『チーム稲生』の活動が盛んになって、学校の支援は今まで以上に続けている」と話し、学校支援も変わらず積極的に取り組んでいることを強調した。

健康診断の受診率向上を目指し、会場でのカラレの販売、農産物や特産品のトラック市を両部会